

汚染:カナダ・オンタリオ州における環境分野の削減による有害な遺産

著者:ウリ・ディマー

これは狂信と死についての記事である。

死者たちは、オンタリオ州のウォーカートンにある墓地の新しい墓に埋葬されている。狂信者たちは、オンタリオ州政府の本拠地であるクイーンズ・パーク内にある州知事室や閣議室で活発に日常業務を行っている。

具体的にどのようにして致死的な大腸菌 0157 が5月にウォーカートンの水道システムに入り込み、少なくとも7名、おそらく11名の死者を出して、何百人もの重症者を発生させたのか、調査員たちは現在もそれを特定しようと努めている。

しかし、ウォーカートンで起こった悲劇はこの町の事件とは全く言えない。これは不慮の事故ではなく、オンタリオ州において飲料水の安全を大きな危険にさらした意図的な政策決定の予測可能であり、また予測されていた結果である。

ウォーカートンの悲劇とは、概してさまざまな専門家や公務員、機関からのハリス政権が行う環境分野の削減は住民の健康を危険にさらしているという度重なる警告のことである。また、これらの警告がどのようにして却下または無視されたのかについてである。

災難の準備は着実に行われ、問題はいつ・どこで起こるかだけであった。ウォーカートンの住民たちは不運である。水道システムの機能が停止して、悲惨な結果を迎えたのは彼らの町だったのだ。

政府がどのようにして自ら管轄している環境専門家たちの警告を5年間にわたり完全に無視することができたのかを理解するためには、マイク・ハリス州知事や過激な思想を持つ少数の顧問たちがあらゆる重要な決定を下して、外部からの意見は全て軽蔑する非常に中央集権的なハリス政権の考え方を知る必要がある。

この政府は、「評判の悪い決定を下すこと」や絶対に妥協しないこと、絶対に方針を変えないことを自慢に思っている。責任者のマイク・ハリス氏は、ばかげた氷山の警告を意に介さず、航海を全速力で続行させたタイタニック号の船長のように頑固である。

1995年6月、ハリス氏率いる進歩保守党が政権を握り、「常識の変革」を強引に推し進め始め、この一連の事件は始まった。この改革は同党の選挙戦略担当者たちがでっちあげたものだが、ハリス氏や側近たちの姿勢を明確に示している。彼らの意見は、全ての事において、民間企業の方が優れていることは事実であり、常識である。

したがって、民間企業を妨害するあらゆるものや、忙しい**検査**官たちが行う**環境規制**などがばかげたものであり、**廃止**する必要があることは明らかである。そのことを理解するのに政府の意見やいわゆる「**専門家**」の助言は必要ないというものだ。

トリー党はこのような確信を持って、オンタリオ州の「**過剰な**」公共サービスや「**お役所的手続き**」の削減を開始したのである。

特に大きな被害を受けたのは**環境対策**や**環境関連機関**である。環境省の予算は42%も削減されて、**モニタリング**や**試験**、**検査**、**実施**、**調査**などを担当している**重要な職員**たちも大幅に削減され、2400人中900人の職員が解雇された。地方事務局は閉鎖され、**複雑な環境問題**に対応するために長い年月をかけて**設置された環境関連機関**もわずか数日の間に**廃止**された。環境省には**無秩序**が残された。天然資源省や農務省などその他の省庁でも**同様の削減**が行われた。

これまでは、政府が多くの産業を規制していたが、現在それらの産業は自らで**環境パフォーマンス**を管理しても良いと言われている。骨材産業の「**自己規制**」を確立させた法令がその例である。また、「**モニタリング**」では企業に**時折チェックリスト形式**の用紙にある一般的な質問に回答して、それを政府へ郵送するように求めている。この意味を正確に伝えるために述べておくが、これは「**自己申告**」で行われている。さらに、企業が間違っ**た情報**を提出しても**法律違反**にならないのだ。

政府はすでに**環境**に関して**混乱**を引き起こすことに成功しているがそれでは**満足**しない。彼らは**すぐさまお役所手続き**が**過剰**に残っている**水質問題**に目を向けた。オンタリオ州は**五大湖清掃活動**の援助を取り止めて、「**上下水道サービス改善法**」が可決された。

(法案は、**ジョージ・オーウェル**風の**超管理主義**的な適した名称が決まるまで、閣議室の外に持ち出されることは許されていない。) ここで言う「**改善**」とは、州政府が所有する**水質試験室**の閉鎖や**下水処理場管理**の**地方自治体**への委託、**地方自治体**の管理する**水道施設**への**資金提供**の停止、さらには**環境省**が**オンタリオ州全域**で**水道水**の**モニタリング**を行っていた**州**の**水道水監査**プログラムの**廃止**のことである。

前述の法令は、**地方自治体**の**水道システム**の**民営化**の**第一歩**でもある。つまり、この法令では多くの**地方自治体**が**財源**の見込みがないにもかかわらず、**将来必要**になる**資本コスト**の**責任**を彼らに持たせており、**民間企業**は**地方自治体**を**買収**の**標的**と見ている。

デビット・リンジー氏は**ハリス**州知事の上級顧問であり、現在は**オンタリオ州**における**インフラ整備専用**の**スーパー・ビルド**基金でも代表を務めている。同氏は**上下水道システム**の**再建**及び**修繕**計画にではなく、「**経済発展**」を促進させる計画にのみ**インフラ**資金を提供すると**明言**しており、**地方自治体**への**水道システム**の**民営化**の**圧力**が強まっている。

トリー党のモデルになっているのは、マーガレット・サッチャー氏が1989年に水道事業を民営化した英国である。当時、水道水が原因の病気が急増した（A型肝炎は200%増加して、赤痢は600%増加した）。しかし、企業の利益や役員報酬はそれよりも劇的に増加した。

大西洋の両側で民営化を狂信する人たちは、まかぬ種は生えぬという同じ持論を主張している。

この大きな転換期の最中、大勢の人が政府の行っていることは危険であると警告している。

環境保護団体はこの削減に異議を唱える重要な書類を作成するが、彼らの懸念は相手にされなかった。常識の**変革**を推し進めるリーダーたちにとって、浄水や環境保全賛成論は「特定利益**団体**」の主張なのだ。

オンタリオ州オンブズマンは、この削減による**損害**があまりにも大きすぎて、政府はサービスを提供する**権限**を与えられているにもかかわらず、それを実行することができないと緊急報告を発表する。

同州の**監査委員**は年次報告書の中で、**地下水資源の不十分なモニタリング**や同州全域における**小規模浄水場の監査**を怠ったことについて、環境省を非難している。

国際合同委員会は、オンタリオ州が**水質問題を軽視**していることについて懸念を表明している。

オンタリオ州の**環境コミッショナー**（独立した**環境オンブズマン**）は、懸念事項の一つとして特に水道水の水質試験を指摘して、政府が環境保護を危うくしていると述べる。

さらに、これらの警告を強調させる**事件**が起こる。

1996年の春、ウォーカートンから車で1時間のところにあるコリングウッドでは、動物の糞便と関連する寄生虫クリプトスポリジウムが水道水を汚染して、何百人も病気になった。死者は出なかったが、オンタリオ州の**水質モニタリング・システムの機能が低下**していることを明確に示している。

同年、日本でも家畜の糞尿によって汚染された水を使用して栽培されたモヤシを食べて、大腸菌に感染した児童13人が死亡して、2万人が病気になった。これは、家畜と水質汚染の危険なつながりを厳しく警告している。

とりわけ、家畜と大腸菌、水質汚染の関連性についての懸念が高まり、**科学者たちが調査を行っている**。また、**米国や英国、アルゼンチン**で起こっている水や食物に関する大腸菌汚染の原因は家畜の糞尿であるとする**研究結果もある**。**カナダ保健省が行った調査**によると、ウォーカートンの位置する放牧が盛んなオンタリオ州南西部は大腸菌感染の危険が高い地域とされている。さらに、家畜の飼育密度と大腸菌感染は直接関連しており、同州の地方では井戸の**32%**が糞便により汚染されていることがわかった。

1996年、ハリス**政権**はこの大腸菌問題に関して独自の**対策**を取る。彼らは、無駄なお役所的手続きをさらに減らす決定を下して、水道水**監査**プログラムから大腸菌試験を排除した。

しかし、この**対策**は暫定的な措置にすぎなかった。その翌年、政府は水道水**監査**プログラムを完全に**廃止**した。さらに、政府職員たち**に対して**法的にはまだ有効なたくさんの環境法規制を実施しないように命令した。特に農場**経営者**は家畜・排水規制に違反していることが見つかったても大目に見られるようになった。

1997年、深い懸念を抱く環境省職員は水質試験プログラムを**廃止**すれば、住民の健康を危険にさらすことになるだろうと政府**に対して**警告を行った。しかし、政府はこれを**権力拡張**を図る公務員たちの利己的な誇張であるとして耳を貸さなかった。

同年、環境省高官は今回の削減により同省の**環境規制実施能力**は大幅に低下しており、**最悪**の場合には訴訟を起こされる可能性もあると警告を発した。これには、政府も注意を払った。

政府の対応は2通りである。

まず、環境災害が発生した場合にどうすれば責任を問われないかを議論するために**環境省職員**を集めて会議を開いた。

次に、「環境承認改善法」法律第57号を可決した。同法では、とりわけ環境省が規制を適用しなかったことが原因で**悪影響**を受けた人が政府**に対して**訴訟を起こすことを禁止している。

ウォーカートンはオンタリオ州ブルース郡の中心に位置しており、この地域は畜産を管理する環境規制の有無によって非常に直接的な影響を受ける。ブルース郡の人口はわずか6万人にすぎないが、16万3千頭の肉用牛と10万頭の豚が飼育されている。この家畜個体群は160万人分の排せつ物を発生させている。

しかし、人間2人が生活している農場でさえ正常に機能する汚水処理装置の設置が義務づけられているのに、豚を1200頭飼育しただけで6万人分の排せつ物を発生させる畜産場**に対して**は同等の義務を課していない。さらに、畜産場から出る排泄物は全て近隣の田畑

に撒き散らされている。一度に飼育する家畜の数が通常 50 頭か 60 頭だった頃はこのやり方でも持続可能だったのかもしれないが、その 10 倍もしくは 20 倍の家畜を飼育すれば全く持続可能ではない。そのような大量の糞尿は田畑で吸収されないので、必然的に地下水や周囲にある水路の深刻な汚染が起こる。

これに関連する健康上のリスクは良く知られている。1999 年 9 月、ブルース地区、グレイ地区、オーウェン・サウンド地区の保健医務官を勤めるマレー・マッキージ博士は問題を厳しく提起した。マッキージ博士は地方自治体へ文書を提出して、「抗生物質を大量に使用する必要のある大規模農場における抗生物質耐性菌の発生に対する懸念が高まっている。そのような耐性菌は農場で生活する家庭に広がり、そこから地域社会へ広がっていくことがこれまでの研究でわかっている」と警告した。また、同博士はウォーカートンでは「農場での不適切な栄養管理が原因で地下水や河川、湖の水質が低下している」という懸念が高まっているとも述べた。

オンタリオ州における水道水の安全に対する環境省水資源政策課の職員たちの懸念は時間の経過とともに高まっていった。2000 年 1 月、環境省は新たな報告書を政府に提出して、「住民の健康を守る権限を持つ環境省にとって、水道水の水質モニタリングを行わないことは深刻な懸念である」と警告した。この報告書では、より小規模な地方自治体の多くは自治体内における水道水の水質モニタリングを行える状態ではないと述べられている。さらに、水質試験室を民営化したため、地域の水道システムで問題が発見されたとしても、環境省や保健医務官が確実に知らせを受けるメカニズムはもはや無いとも警告している。

ハリス政権はこの報告書を無視する。

最終的に水道システムが崩壊したのはウォーカートンである。

環境省がウォーカートンの水道システムを最後に点検したのは 1998 年 2 月である。その際、水道システムに長い間大腸菌などの問題があったことが判明した。環境省は改善点を取りまとめたが、点検員が非常に不足しており、また基準を満たしていない小規模水道システムが州全域で見つかったこともあり、実際の改善状況の追跡点検が予定されることはなかった。

1998 年 6 月、ウォーカートン町議会はこの状況に対してあまりにも懸念したため、マイク・ハリス州知事に直接嘆願書を送り、ウォーカートンの水質試験再開を訴えた。

返事はなかった。

2000 年 1 月～4 月、ウォーカートンを担当している水質試験室が大腸菌群を何度も検出した。これは、表流水が水道システムに流れ込

んでいることを示している。水質試験室はこの事に関して5回にわたり環境省に報告した。環境省がウォーカートン公益事業委員会に電話をした際、問題は解決済みであり心配は要しないと断言された。したがって、環境省は法律で義務づけられている保健医務官への報告を行わなかった。

5月上旬、A&L 東部カナダ研究所がウォーカートンに新設されて、水質試験を開始した。5月16日、同研究所が大腸菌 0157 汚染を発見した。同研究所は、この汚染についてウォーカートン公益事業委員会への報告は行ったが、州政府のガイドラインで義務づけられている環境省への報告は行わなかった。同研究所のスポークスマンであるガブリエル・ファークス氏は、なぜ環境省に大腸菌汚染について報告しなかったのかと質問されて、**研究所では知的財産である試験結果は機密事項とみなしており、「依頼主以外への報告は機密性の基本原則に反する」と答えた。**

ウォーカートンにある浄水場の管理人は、水道水が汚染されている事実を隠して、一人で問題を解決しようとしたが、彼が問題の深刻さに気づいていないことは明らかである。数日後、マレー・マッキージ博士が事態に気づいてこの事を告発したが、何百人もの住民はすでにこの致命的な汚染にさらされていた。

このウォーカートンでの出来事は、住民の健康を守るために確立された諸制度が公共部門を忌み嫌う政府によってどのようにして意図的に廃止されたかである。政府は予測可能な結果についての可能な限り明瞭な警告を受けていたにもかかわらず、「**環境関係のお役所的手続き**」の削減を理由に、いつ・だれが問題を起こしても対処できるように多数の保護手段を含んでいた水道水保護制度の効力を低下させて、**結果的に制度は機能を失った。**

この出来事は「常識の**変革**」の当然の結果であり、これに関して責任を負っている政府の崩壊とも言えるかもしれない。

2000年6月、この記事は最初にカナダ・ディメンション誌の2000年7-8月号に掲載された。その後、ルツ・コーエン氏が編集を行い、インソムニアク・プレス社から出版された「宇宙人の侵略: オンタリオ州におけるハリス・トーリー党の不始末」等たくさんの形式・出版物に度々記載された。

**By Ulli Diemer**

翻訳: 津田 秀一郎 (Translated from the English by Shuichiro Tsuda)